

# H24-B14-2 0.00~8.83m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
1	0	5.66	埋土(砕層)	0.00	5.66	0.00~5.66m 埋土(砕層)	0.00	5.66	0.00~5.66m 埋土	
1	0	5.66	細・シルト混り砂 径φ2~30mmの角~歪角稜を5~10%程度混入。砂は細~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。	0.00	3.47	0.00~3.47m 細・シルト混り砂 径φ2~30mmの角~歪角稜を5~10%程度含む。砂は細~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。 礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫が混入する。 礫の混入状況は不均質で、少ない部分と多い部分の量が認められる。	0.00	3.47	0.00~3.47m 細・シルト混り砂 径φ2~30mmの角~歪角稜を5~10%程度含む。砂は細~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を含む。礫の分布は不均質で、少ない部分と多い部分が認められる。	
3	3.47	3.93	コンクリート 柱状コアにて採取。硬質である。	3.47	3.93	コンクリート 柱状コアで硬質である。		3.47	3.47~3.93m コンクリート 柱状コアで硬質である。	
4	3.93	4.28	グリ石 泥岩、φ20~40mmの角礫主体。	3.93	4.28	グリ石 粘板岩、φ20~40mmの角礫主体。		3.93	3.93~4.28m グリ石 径20~40mmの粘板岩の角礫からなる。	
5	4.28	6.66	シルト混り硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの角角稜を主とし、硬含有率10~20%程度。風化礫やクサリ礫を混入。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩が混入する。	4.28	6.66	シルト混り硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの角角稜を主とし、硬含有率10~20%程度。風化礫やクサリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩を含む。		4.28	4.28~6.66m シルト混り硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫は径2~30mmの角角稜を主とし、硬率は10~20%程度。風化礫やクサリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩を含む。	
6	5.13	5.19	有機物混り砂を混入。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を混入。全体に若干有機質である。	5.23	5.29	有機物混り砂を混入。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。		5.23	5.23~5.29m 有機物混り砂を含む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。	
7	5.13	5.19	色調種)灰褐(10YR5/1)	5.23	5.29	(色調種)灰褐(10YR5/1)		5.23	(色調種)灰褐	
8	6.66	8.39	硬質砂	-	-	-		6.66	6.66~8.39m 硬質砂	
9	6.66	6.82	少量の粗粒砂を混入する細粒砂。少量の未分解木片を混入。	6.66	6.82	少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。		6.66	6.66~6.82m 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。	
10	6.82	8.08	細~粗粒砂からなり(7.43m以深ではシルトが混入)。全体にφ2~5mmの細礫が混入。細礫は角~歪角稜を主とする。礫種はCa <sub>2</sub> 及び石英からなる。	-	-	-		6.82	6.82~8.08m 細~粗粒砂からなり、7.43m以深ではシルトが混入。全体に径2~5mmの細礫が混入。細礫は角~歪角稜を主とする。礫種は花崗斑岩、アブライト、石英からなる。	
11	7.10	7.10	上部7.10m付近まで石英細礫(φ5~10mm程度)を多く混入する。炭化物も塊状に混入。	7.10	7.10	上部7.10m付近まで石英細礫(φ5~10mm程度)を多く含む。炭化物も塊状に含む。		7.10	7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も塊状に含む。	
12	7.10	-	φ5~30mmの風化礫及び半風化礫混入。	7.10	8.08	φ5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。		7.10	7.10~8.08m 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。	
13	7.30	7.30	7.30付近、未分解の植物混入する。	7.30	7.30	7.30m付近、未分解の植物を含む。		7.30	7.30m付近、未分解の植物片を含む。	
14	6.82	7.43	上部はシルト質、下部は硬質となる。	6.82	7.65	上部はシルト質、下部は硬質となる。		6.82	6.82~7.65m 上部はシルト質、下部は硬質となる。	
15	7.70	7.70	7.70m付近、炭化物を混入する。	7.70	7.70	7.70m付近、炭化物を含む。		7.70	7.70m付近、炭化物を含む。	
16	8.08	8.39	砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深から若干の有機物を混入。	8.08	8.39	砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深から若干の有機物を含む。		8.08	8.08~8.39m 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。	
17	8.39	8.83	砂混り有機質シルト	8.39	8.83	砂混り有機質シルト		8.39	8.39~8.83m 砂混り有機質シルト	
18	8.39	8.83	(地質名種)砂混り有機質シルト	8.39	8.83	(地質名種)砂混り有機質シルト		8.39	(地質名種)砂混り有機質シルト	
19	8.39	8.53	φ3cm角礫を混入。粗粒砂が主。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片が混入する。	8.39	8.53	φ1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。		8.39	8.39~8.53m 径1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。	
20	8.53	8.83	45~50°傾斜で有機物及び炭化木片が混入。所々、粗粒砂をブロック状に混入。	8.53	8.83	45~50°傾斜で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。		8.53	8.53~8.83m 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。	
21	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層をはさむ。	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層を含む。		8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層を含む。	

# H24-B14-2 8.83~13.09m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
22	8.83	9.84	有機物混り砂	8.83	9.84	有機物混り砂	8.83	9.84	8.83~9.84m:有機物混り砂	-
23	8.83	9.84	(地質名欄)有機物混り砂、砂礫	8.83	9.84	(地質名欄)有機物混り砂	8.83	9.84	(地質名欄)有機物混り砂	-
24	8.83	9.10	有機物混り砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満混入、少量の炭化物を混入。	8.83	9.10	有機物混り砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。	8.83	9.10	8.83~9.10m:有機物混り砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。	-
25	-	-	-	8.90	8.97	生末を含む。	8.90	8.97	8.90~8.97m:生末を含む。	-
26	9.10	9.26	有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。	-	-	-	9.10	9.26	9.10~9.26m:有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。	-
27	9.13	9.15	微細粒砂(火山灰?)を薄層状にはさまむ。下部は粒径やや細く、砂質シルト~シルト質砂状。	9.13	9.15	細粒砂(火山灰?)を薄層状に挟む。下部は粒径やや細く、砂質シルト~シルト質砂状。	9.13	9.15	9.13~9.15m:微細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径やや細く、砂質シルト~シルト質砂状を量する。	-
28	9.26	9.34	細粒砂を主とするが不均質で、φ0.5~1cmの石英角礫を混入し、粘土分を少量~中位で混入する。また、炭化物片、未分解繊維も少量混入。	9.26	9.34	細粒砂を主とするが不均質で、φ0.5~1cmの石英角礫を混入し、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。	9.26	9.34	9.26~9.34m:細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を含み、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。	-
29	9.34	11.12	砂礫φ2~50mmの花崗岩岩塊が主体。基質は少量の粘土分を混入する粗~中粒砂。	9.34	11.12	砂礫φ2~50mmの花崗岩岩塊が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。	9.34	11.12	9.34~11.12m:砂礫径2~50mmの花崗岩岩塊が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。	-
30	9.34	9.71	φ17cmの玉石を混入。	9.34	9.71	φ17cmの玉石を含む。	9.34	9.71	9.34~9.71mに径17cmの玉石を含む。	-
31	10.70	10.72	細粒を薄層状にはさまむ。	10.70	10.72	細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。	10.70	10.72	10.70~10.72m:細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。	-
32	11.12	12.04	礫混り砂φ2~5mm石英角礫を5~10%程度混入する。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を混入する。	11.12	12.04	礫混り砂φ2~5mm石英角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を含む。	11.12	12.04	11.12~12.04m:礫混り砂径2~5mmの石英角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を含む。	-
33	11.12	11.66	(地質名欄)礫混り砂	11.12	11.66	(地質名欄)礫混り砂	11.12	11.66	(地質名欄)礫混り砂	-
34	11.40	11.42	幅10mmの灰白色シルトをはさまむ。	11.40	11.42	幅10mmの灰白色シルトを挟む。	11.40	11.42	11.40~11.42m:幅10mmの灰白色シルトを挟む。	-
35	11.53	11.55	幅15mmの灰白色シルトをはさまむ。	11.53	11.55	幅15mmの灰白色シルトを挟む。	11.53	11.55	11.53~11.55m:幅15mmの灰白色シルトを挟む。	-
36	11.66	11.79	スライム	11.66	11.79	スライム 黄褐色のシルト混り粗粒砂からなる。	11.66	11.79	11.66~11.79m:スライム 黄褐色のシルト混り粗粒砂からなる。	-
37	11.66	11.79	(地質名欄)スライム	11.66	11.79	(地質名欄)コア欠如	11.66	11.79	(地質名欄)コア欠如	-
38	11.79	12.04	(地質名欄)礫混り砂	11.79	12.04	(地質名欄)礫混り砂	11.79	12.04	(地質名欄)礫混り砂	-
39	12.04	12.69	有機物混り砂 細砂~中砂を主とし、部分的にシルト質(有機物混り)となる。有機物は20~30°傾斜する。	-	-	-	12.04	12.69	12.04~12.69m:有機物混り砂 細~中砂を主とし、部分的に有機物混りシルト質となる。有機物は傾斜20~30°を量する。	-
40	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混り砂	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混り砂	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混り砂	-
41	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。	-
42	12.37	12.41	厚さ4cmの有機質シルト	12.37	12.41	厚さ4cmの有機質シルトを挟む。	12.37	12.41	12.37~12.41m:厚さ4cmの有機質シルトを挟む。	-
43	12.65	12.67	有機質シルトを薄層状に挟む。	-	-	-	12.65	12.67	12.65~12.67m:有機質シルトを薄層状に挟む。	-
44	12.70	12.73	有機質シルトを薄層状に挟む。	-	-	-	12.70	12.73	12.70~12.73m:有機質シルトを薄層状に挟む。	-
45	12.69	13.09	有機物混り砂質シルト シルト~中砂からなり、全体に有機物が混じる。	-	-	-	12.69	13.09	12.69~13.09m:有機物混り砂質シルト シルト~中砂からなり、全体に有機物が混じる。	-



# H24-B14-2 12.69~18.04m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
46	12.69	13.03	(地質名欄)有機物混り砂質シルト 石英斑岩の垂角礫φ2~4cmが主体となる。	12.69	13.09	(地質名欄)有機物混り砂質シルト 花崗斑岩の垂角礫φ2~4cmを含む。	12.69	13.09	(地質名欄)有機物混り砂質シルト 12.76~12.85m:径2~4cmの花崗斑岩の垂角礫を含む。	-
47	12.76	12.85	砂混り粘土で、下部砂質粘土状である。 上部13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部にいたがいがなくなる。	12.76	12.85	-	12.76	12.85	12.85~13.09m:砂混り粘土で、下部は砂質粘土状である。 13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。	-
48	12.85	13.09	シルト混り砂 細砂を主とする砂に、全体にシルトが混じる。	-	-	-	12.85	13.09	13.09~13.80m:シルト混り砂 細砂を主とする砂に全体にシルトが混じる。	-
49	13.09	13.86	(地質名欄)シルト混り砂 13.30m付近から色調変化	13.09	13.80	(地質名欄)シルト混り砂 13.60~13.80m付近:粒径の均一な細~極細粒砂となる。	13.09	13.80	(地質名欄)シルト混り砂 13.17~13.60mはシルト~粘土分を含む、13.60~13.80mは均質な細~極細粒砂からなる。	-
50	13.09	13.86	13.17~13.60m付近:シルト~粘土分を10~20%混入する。	13.17	13.60	13.17~13.60m付近:シルト~粘土分を含む。	13.17	13.60	13.17~13.60mはシルト~粘土分を含む、13.60~13.80mは均質な細~極細粒砂からなる。	-
51	13.30	13.30	13.40m付近:φ5~7mmの石英礫を約5%混入。	-	-	-	-	-	13.40m付近:径5~7mmの石英礫を約5%含む。	-
52	13.17	13.60	13.60~13.80m付近:粒径の均一な細~極細粒砂となる。	13.60	13.80	13.60~13.80m付近:粒径の均一な細~極細粒砂となる。	13.60	13.80	13.60~13.80m:砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の垂角~垂円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~歪円礫を含む。礫は花崗斑岩が主体、礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ:硬質=1:1	-
53	13.40	13.40	13.60~13.80m付近:粒径の均一な細~極細粒砂となる。	13.60	13.80	13.60~13.80m付近:粒径の均一な細~極細粒砂となる。	13.60	13.80	13.80~16.24m:砂礫 径2~40mm(最大径330mm)の垂角~垂円礫を主とし、所々、径40~70mmの円~歪円礫を含む。礫は花崗斑岩が主体で、礫含有率50~70%程度。基質はシルト混りりの不均質な砂からなる。半クサリ礫と硬質礫の割合は同程度である。	-
54	13.60	13.80	砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の垂角~垂円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~歪円礫を含む。礫は花崗斑岩が主体、礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ:硬質=1:1	13.80	16.24	砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の垂角~垂円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~歪円礫を含む。礫は花崗斑岩が主体、礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ:硬質=1:1	13.80	16.24	(地質名欄)砂礫	-
55	13.86	16.24	(地質名欄)砂礫	13.80	16.24	(地質名欄)砂礫	13.80	16.24	(地質名欄)砂礫	-
56	15.08	15.17	Ap玉石	15.08	15.17	Qp玉石	15.08	15.17	15.08~15.17m:花崗斑岩の玉石を含む。	-
57	15.42	15.50	風化Qp玉石	-	-	-	15.42	15.50	15.42~15.50m:風化花崗斑岩の玉石を含む。	-
58	15.70	16.00	Qp岩塊	15.70	16.00	Qp岩塊	15.70	16.00	15.70~16.00m:花崗斑岩の岩塊を含む。	-
59	15.70	16.00	砂礫とQpの境界は、密着しており、 $\angle 45^\circ$ 程度を示す。	-	-	-	16.24	16.24	16.24m:砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜 $45^\circ$ 程度を示す。	-
60	16.24	16.24	花崗斑岩着岩 変質著しい、全体に軟質化する。	16.24	16.24	花崗斑岩着岩 変質著しい、全体に軟質化する。	-	-	-	-
61	16.24	16.24	花崗斑岩着岩 変質著しい、全体に軟質化する。	16.24	16.24	花崗斑岩着岩 変質著しい、全体に軟質化する。	-	-	-	-
62	16.24	16.24	Go着岩 Goの斑礫はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。石基は淡白色である。	16.24	60.65	花崗斑岩 Goの斑礫はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。石基は淡白色である。	16.24	60.65	16.24~60.65m:花崗斑岩 斑礫は径3~8mmの石英、長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。石基は淡白色である。	-
63	16.24	18.68	16.24~18.68:強風化・変質部 全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。	16.24	18.68	16.24~18.68m:強風化・変質部 全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。	16.24	18.68	16.24~18.68m:強風化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。	-
64	16.24	16.64	(色調欄)記載なし	16.24	16.64	(色調欄)5YR8/1 褐灰	16.24	16.64	(色調欄)褐灰	-
65	16.24	16.94	$\angle 30 \sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。下位に比べて岩石組織を残している。	16.24	16.94	$\angle 30 \sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。下位に比べて原岩組織を残している。	16.24	16.94	16.24~16.94m:傾斜 $30 \sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~巾1mmで挟む。下位に比べて原岩組織を残す。	-
66	16.64	18.04	(色調欄)記載なし	16.64	18.04	(色調欄)5YR8/1 灰白	16.64	18.04	(色調欄)灰白	-
67	16.94	18.03	割れ目不明瞭となる。	16.94	18.04	割れ目不明瞭となる。	16.94	18.04	16.94~18.04m:割れ目が不明瞭となる。	-





# H24-B14-2 22.42~28.50m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
87	22.39	22.63	網状割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	微細な割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	22.42~22.63m:微細な割れ目が発達し、割れ目ぞいに劣化する。	-
88	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	-
89	22.39	22.63	(色調欄) 5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄) 5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄) 明褐灰	-
90	22.63	23.71	割れ目多く、径1~3cmの角礫状コア。	-	-	-	22.63	23.71	22.63~23.71m:割れ目が多く、径1~3cmの角礫状コアを呈する。	-
91	23.71	23.85	長さ3~9cmの短柱状コア。 23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。	-	-	-	23.71	23.85	23.71~23.85m:長さ3~9cmの短柱状コアからなる。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。	-
92	23.85	24.48	径1~5cmの片状コアを呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目ぞいに径0.2~1cm程度の細片化が認められる。	23.85	24.48	径1~5cmの片状コアを呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目ぞいに径0.2~1cm程度の細片化が認められる。	23.85	24.48	23.85~24.48m:径1~5cmの岩片状を呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目ぞいに径0.2~1cm程度の細片化が認められる。	-
93	24.48	25.88	径0.5~3cm程度の塊状~片状コアを呈し、割れ目として認識できない。 コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響少ない。	24.48	25.88	径0.5~3cm程度の塊状~片状コアを呈し、割れ目として認識できない。 コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響少ない。	24.48	25.88	24.48~25.88m:径0.5~3cm程度の塊状~片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	-
94	25.00	26.00	(最大コア長欄) 0	25.00	26.00	(最大コア長欄) 4	25.00	26.00	(最大コア長欄) 4	-
95	25.88	26.62	土砂~塊状を呈するコア。 岩片は径0.5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は径0.5~50mmのものを主体とする。基質相当部はシルト混じり中粒砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	土砂~塊状を呈するコア。 岩片は径0.5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は径0.5~50mmのものを主体とする。基質相当部はシルト混じり中粒砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	25.88~26.62m:土砂~塊状を呈する。岩片は径0.5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は径0.5~50mmのものを主体とする。基質はシルト混じり中粒砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	-
96	26.62	27.62	5~15mm程度で網状に割れ目が発達し、割れ目ぞいに岩質劣化し、土砂~片状を呈する。	26.62	27.62	5~15mm程度で網目状に割れ目が発達し、割れ目ぞいに岩質劣化し、土砂~片状を呈する。	26.62	27.62	26.62~27.62m:5~15mm間隔で網目状に割れ目が発達し、割れ目ぞいは土砂~細片状を呈する。	-
97	27.28	27.62	上位と比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状コアを主とする。	27.28	27.62	上位と比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状コアを主とする。	27.28	27.62	27.28~27.62m:上位に比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。	-
98	27.47	27.62	∠60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	27.47	27.62	∠60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	27.47	27.62	27.47~27.62m:傾斜60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	-
99	27.62	27.62	巾1~2mm、黄灰色砂混じりシルト、∠65°(見かけ右ズレ断層)→逆断層	27.62	27.62	幅1~2mm、黄灰色砂混じりシルト、∠65°(見かけ右ズレ断層)→逆断層。シルトは不連続である。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.62	27.62	27.62m:傾斜65°で幅1~2mmの黄灰色砂混じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
100	27.62	27.97	網状に割れ目密集し、コアはやや脆弱となる。	-	-	-	27.62	27.97	27.62~27.97m:網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	-
101	27.92	28.21	∠60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、∠20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	-	-	-	27.92	28.21	27.92~28.21m:傾斜60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	-
102	28.21	28.50	2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	28.21	28.50	2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	28.21	28.50	28.21~28.50m:2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体的に劣化する。	-
103	28.36	28.45	28.36~28.45m間には、∠30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達している。	-	-	-	28.36	28.45	28.36~28.45m:傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。	-
104	28.45	28.50	岩石組織不明瞭となる。上∠55°、下∠50°の帯状カタクレーサイト?	28.45	28.50	原岩組織不明瞭となる。上∠55°、下∠50°の帯状カタクレーサイト?	28.45	28.50	28.45~28.50m:上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。	-

# H24-B14-2 28.50~30.44m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	適正化した記事内容		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
105	28.50	28.66	破砕帯(主せん断面28.50m)	28.50	28.66	破砕部(最新活動面28.50m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一			●28.50~28.66m:破砕部 28.50~28.51m:凝結しり粘土状部(Hc-2) 上端50°、下端50°、径50mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m:粘土混じり礫状部(Hj) 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄褐色を呈する。幅23~30mm。 28.53~28.66m:粘土混じり角礫状部(Hj) 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅120mm。		・種数、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の育態、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
106	28.50	28.51	砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)	28.50	28.51	凝結しり粘土状部(Hc-2) 上端50°、下端50°で直線的に連続。径5mm以下の岩片を10%程度含む凝結しり粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。軟質。	・砂より礫を多く含むため破砕部内物質の名称を変更した。 ・上端下端境界、幅、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した					
107	28.50	28.53	砂・細粒凝じりシルト状破砕部(Hc)、巾23~30mm、上端50°、下端40°。 砂・細粒凝じりシルト(Hc)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。	28.51	28.53	粘土混じり礫状部(Hj)、幅23~30mm、上端50°、下端40°で波打って連続。 砂・細粒凝じりシルト(Hc)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。 径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの軟質な黄灰色粘土を明目状に伴う。軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。にぶい黄褐色を呈する。	・表記の修正(28.50⇒28.51) ・破砕部であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した。 ・色調、硬軟、境界面及び細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・Hc-2についての記載は上記に区別して記載したため削除した。 ・表記の修正(単位の記載漏れ) ・表現の適正化(幅)	28.50	28.66			
108	28.53	28.66	粘土混じり角礫状(Hj)、巾12cm、上端40°、下端は不明瞭。 全体に岩組織不明瞭で、不規則に粘土細脈が分布する。下端は岩劣化と推し、境界は不明瞭である。	28.53	28.66	粘土混じり角礫状(Hj)、幅12cm、上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。 全体に岩組織不明瞭で、不規則に粘土細脈が分布する。下端は岩劣化と推し、境界は不明瞭である。 径5~20mmの岩片からなり、細粒部は局所的に分布する。軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。にぶい黄褐色を呈する。	・上端境界の性状、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。 ・表現の適正化(幅)					
109	28.51	28.53	(破砕度区分)Hc	28.51	28.53	(破砕度区分)Hj	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	28.51	28.53	(破砕度区分)Hj		
110	28.66	28.71	土砂状を呈する岩盤劣化部。	-	-	-		28.66	28.71	28.66~28.71m:土砂状を呈する。		
111	28.71	29.45	40°及び60°割れ目が2~6cmで発達、交錯し、コアは片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。	28.71	29.45	40°及び60°割れ目が2~6cm間隔で発達、交錯し、コアは片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。	・表記の修正(単位「間隔」の記載漏れ。) ・表現の適正化(片状⇒岩片状)	28.71	29.45	28.71~29.45m:傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達、交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。		
112	28.83	29.16	28.83~29.16m間は上下位と比べて硬質となる。	28.83	29.16	28.83~29.16m間は上下位と比べてやや硬質となる。	・コアに合わせて硬軟を変更した。	-	-	-		・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
113	29.16	29.45	29.16~29.45m間は風化・変質進行し、脆弱。	-	-	-		29.16	29.45	29.16~29.45m:風化・変質が進み、脆弱である。		
114	29.45	29.81	岩石組織、割れ目不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。	29.45	29.81	原岩組織、割れ目不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。	・表現の適正化(原岩組織)	29.45	29.81	29.45~29.81m:原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。		
115	29.76	29.81	硬質部を塊状に含む。	-	-	-		29.76	29.81	29.76~29.81m:硬質部を塊状に含む。		
116	29.81	29.87	マンガン汚染部がある。	-	-	-		29.81	29.87	29.81~29.87m:マンガン汚染が拡がる。		
117	29.91	30.21	片状コア。	29.91	30.21	細片状コア。	・表現の適正化(片状⇒細片状)	-	-	-		・記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
118	29.91	30.21	40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達。割れ目に沿って岩石組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	29.91	30.21	40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達。割れ目に沿って原岩組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	・表現の適正化(原岩組織)	29.91	30.21	29.91~30.21m:傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になることもある。コアは全体に褐色を帯びる。		
119	30.13	30.13	巾1mm、40°黄白砂混じり粘土状。上盤側に巾10~15mmの岩質劣化部を伴う。	30.13	30.13	幅1mm、40°黄灰色砂混じり粘土状。上盤側に幅10~15mmの細片状部を伴う。	・黄白という色名称は土色粘にない名称であるため色調名を変更した。 ・上盤側に必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。 ・表現の適正化(幅) ・表記の修正(「色」の記載漏れ) ・岩質劣化の状況を具体的に記載した	30.13	30.13	30.13m:傾斜30°で幅1mmの黄灰色砂混じり粘土を挟む。上盤側に幅10~15mmの細片状部を伴う。		
120	30.21	32.40	40~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、柱状コアを主体とする。割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染は認められるが、岩質は硬質である。	30.21	32.40	40~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、柱状コアを主体とする。割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染は認められるが、岩質は硬質～やや硬質である。	・コアに合わせて硬軟を変更した	30.21	32.40	30.21~32.40m:傾斜40~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染が認められる。		・記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
121	30.21	31.27	(岩盤区分)CL	30.21	31.27	(岩盤区分)CM	・下記の区分変更に伴い、岩盤を変更した	30.21	31.27	(岩盤区分)CM		
122	30.28	30.44	長さ16cmの柱状コア。	-	-	-		30.28	30.44	30.28~30.44m:長さ16cmの柱状コアである。		



# H24-B14-2 30.44~34.77m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
123	30.44	30.62	(割れ目状懸濁) bランク	30.44	30.62	(割れ目状懸濁) bランク	30.44	30.62	(割れ目状懸濁) bランク	-
124	30.62	30.72	∠40°程度の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下位と比べてやや岩質劣化する。	-	-	-	30.62	30.72	30.62~30.72m: 傾斜40°程度の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下位と比べてやや岩質劣化する。	-
125	30.76	32.40	(割れ目状懸濁) cランク	30.76	32.40	(割れ目状懸濁) bランク	30.76	32.40	(割れ目状懸濁) bランク	-
126	31.55	31.93	∠40°と∠65°以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯し、コアは片~短柱状を呈する。	31.55	31.93	∠40°と∠65°以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯し、コアは片~短柱状を呈する。	31.55	31.93	31.55~31.93m: 傾斜40°と65°以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯する。	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
127	31.55	31.93	(コアの形状欄) IIIランク	31.55	31.93	(コアの形状欄) IVランク	31.55	31.93	(コアの形状欄) IVランク	-
128	32.15	35.14	(岩級区分欄) CL	32.15	35.14	(岩級区分欄) CM	32.15	35.14	(岩級区分欄) CM	-
129	32.40	32.67	∠50~60°の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿いに岩質劣化が進行する。一部は原岩組織不明瞭となる。	32.40	32.67	∠50~60°の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿いに岩質劣化が進行する。一部は原岩組織不明瞭となる。	32.40	32.67	32.40~32.67m: 傾斜50~60°の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿いに岩質劣化が進む。一部は原岩組織が不明瞭となる。	-
130	32.49	32.91	(割れ目状懸濁) bランク	32.49	32.91	(割れ目状懸濁) bランク	32.49	32.91	(割れ目状懸濁) bランク	-
131	32.67	32.67	32.67付近、∠40~50°の割れ目および不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片は硬質である。	32.67	32.67	32.67m付近、∠40~50°の割れ目および不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片はやや硬質である。	32.67	32.67	32.67m付近、傾斜40~50°の割れ目及び不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達し、岩片状を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片はやや硬質である。	-
132	32.67	32.91	上下位に比べて割れ目間隔が広く、コアは片~短柱状を呈する。	32.67	32.91	上下位に比べて割れ目間隔が広く、コアは片~短柱状を呈する。	-	-	-	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
133	32.91	33.01	不規則網目状に割れ目が発達する。	32.91	33.01	不規則網目状に割れ目が発達する。	32.91	33.01	32.91~33.01m: 不規則で網目状に割れ目が発達する。	-
134	33.01	33.10	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Bランク (風化欄) γランク	33.01	33.10	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Cランク (風化欄) δランク	33.01	33.10	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Cランク (風化欄) δランク	-
135	33.01	35.14	硬質片状~短柱状コアを主体とする。∠50~60°の割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、∠75°以上の高角度割れ目が30~50cm間隔で発達する。一部割れ目沿いに岩質劣化し、細礫状を呈するところもある。	33.01	35.14	硬質で短柱状コアを主体とする。∠50~60°の割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、∠75°以上の高角度割れ目も認められる。一部割れ目沿いに岩質劣化し、細礫状を呈するところもある。	33.01	35.14	33.01~35.14m: 傾斜50~60°の割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角度割れ目も認められる。一部割れ目沿いに細礫状を呈する。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
136	33.10	34.46	(割れ目状懸濁) bランク	33.10	34.46	(割れ目状懸濁) bランク	33.10	34.46	(割れ目状懸濁) bランク	-
137	33.72	33.72	∠50°の割れ目に黄白シルト質砂が付着する。コア採取時に大半を流失し、詳細は不明。	33.72	33.72	∠50°の割れ目に黄灰色シルト質砂が付着する。コア採取時に大半を流失し、詳細は不明。	33.72	33.72	33.72m: 傾斜50°の割れ目に黄灰色シルト質砂が付着する。コア採取時に大半を流失し、詳細は不明である。	-
138	34.20	34.46	割れ目間隔密となり、コアは1~5cmの片状を呈する。割れ目面には酸化汚染とともにマンガンの付着が認められる。カリ長石は黄褐~白濁する。	34.20	34.46	割れ目間隔が狭くなり、コアは径1~5cmの細片状を呈する。割れ目面には酸化汚染とともにマンガンの付着が認められる。カリ長石は黄褐~白濁する。	34.20	34.46	34.20~34.46m: 割れ目間隔が狭くなり、径1~5cmの細片状を呈する。割れ目面には酸化汚染とともにマンガンの付着が認められる。カリ長石は黄褐~白濁する。	-
139	34.32	34.46	(風化欄) δランク	34.32	34.46	(風化欄) γランク	34.32	34.46	(風化欄) γランク	-
140	34.46	34.73	(コアの形状欄) IIIランク	34.46	34.73	(コアの形状欄) IVランク	34.46	34.73	(コアの形状欄) IVランク	-
141	34.77	34.77	巾5~12mm、∠60°程度の黄褐~灰白粘土混じり砂。(みかけ逆断層)。	34.77	34.77	幅5~12mm、∠60°程度の黄褐~灰白色粘土混じり砂。(みかけ逆断層)。砂は上端側の割れ目に入っている。砂を挟む割れ目の周辺部には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	34.77	34.77	34.77m: 傾斜60°で幅5~12mmの黄褐~灰白色粘土混じり砂を挟む。砂は上端側の割れ目に入っている。砂を挟む割れ目の周辺部には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

# H24-B14-2 34.93~38.27m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
142	34.93	34.93							34.93	34.93	34.93m、割れ目沿いに岩質劣化する。岩片にはマンガンが付着する。割れ目のかみ合せが悪い。	
143	34.93	35.00		34.93	35.00	(コアの形状欄)Ⅲランク			34.93	35.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	
144	35.00	35.14		35.00	35.14	(コアの形状欄)Ⅲランク			35.00	35.14	(コアの形状欄)Ⅲランク	
145	35.14	35.74		35.14	35.74	割れ目が不規則割れ目状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色味を帯びる。			35.14	35.74	35.14~35.74m、割れ目が不規則割れ目状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色味を帯びる。	
146	35.20	35.50		35.20	35.50	35.20~35.50m間は、不規則に劣化部が分布し、コアは砂礫~片状を呈する。			35.20	35.50	35.20~35.50m、不規則に劣化部が分布し、コアは砂礫~細片状を呈する。	
147	35.59	35.59		35.59	35.59	巾1~3mm、∠50°、黄褐~黄白色粘土混じり砂。下盤側にマンガン汚染が目立つ。			35.59	35.59	35.59m、傾斜50°で巾1~3mmの黄褐~黄白色粘土混じり砂を挟む。下盤側にマンガン汚染が目立つ。	
148	35.64	35.91				密着網状割れ目に沿って酸化汚染が広がる。			35.64	35.91	35.64~35.91m、密着した網状割れ目に沿って酸化汚染が広がる。	
149	35.88	36.09		35.88	36.09	35.88~36.09m、密着割れ目沿いの酸化汚染は認められるが、コアは硬質短柱状を呈する。			35.88	36.09	35.88~36.09m、密着割れ目沿いの酸化汚染が認められる。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
150	36.00	37.52		36.00	37.52	(割れ目形状欄)cランク			36.00	37.52	(割れ目形状欄)bランク	
151	36.09	36.43		36.09	36.43	∠40~50°の割れ目が5~10cm間隔で発達。コアは硬質短柱状を呈する。			36.09	36.43	36.09~36.43m、傾斜40~50°の割れ目が5~10cm間隔で発達する。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
152	36.43	37.52		36.43	37.52	∠50°程度の割れ目の他、不規則に割れ目が分布し、コアは硬~片状を呈する。割れ目面は黄褐色化する。岩片はやや硬質であるが、コア採取時に軟質細粒物を流失している。			36.43	37.52	36.43~37.52m、傾斜50°程度の割れ目の他、不規則に割れ目が分布し、硬~細片状を呈する。割れ目面は黄褐色化する。コア採取時に軟質細粒物を流失している。	
153	36.82	37.05		36.82	37.05	(コアの形状欄)Ⅳランク			36.82	37.05	(コアの形状欄)Ⅴランク	
154	37.20	37.20		37.20	37.20	岩片に灰白色シルトが付着する。			37.20	37.20	37.20m、岩片に灰白色シルトが付着する。	
155	37.32	37.52		37.32	37.52	(コアの形状欄)Ⅳランク			37.32	37.52	(コアの形状欄)Ⅴランク	
156	37.52	37.89		37.52	37.89	割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは礫状~片状を呈する。マサ状部では割れ目、原岩組織や不明瞭となる。			37.52	37.89	37.52~37.89m、割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは礫状~細片状を呈する。マサ状部では割れ目や原岩組織がやや不明瞭となる。	
157	37.65	37.78		37.65	37.78	(コアの硬さ欄)Ⅰランク			37.65	37.78	(コアの硬さ欄)Ⅰランク	
158	37.89	38.10		37.89	38.10	割れ目が巾1cm間隔網状に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が広がる。割れ目の多くは密着するが、ハンマーの軽打で分離する。			37.89	38.10	37.89~38.10m、割れ目が巾1cm間隔で網状に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が広がる。割れ目の多くは密着するが、ハンマーの軽打で分離する。	
159	38.00	39.00		38.00	39.00	(最大コア長欄)0			38.00	39.00	(最大コア長欄)4	
160	38.10	38.27		38.10	38.27	破砕部-硬質砂状破砕部(H)			38.10	38.27	破砕部-粘土混じり礫状部(H)	硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
161	38.10	38.27		38.10	38.27	破砕部(H)、上端40°(主せん断面)、下端50°で巾11cm程度、シルト・細砂の混じる細粒砂を主とする。下位ほどシルト~粘土分を多く含む。38.10~38.19m間は灰白色。38.19~38.27mは淡黄白色を呈する。			38.10	38.27	最新活動面という用語に統一 破砕部内物質、硬質、境界面及び細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記修正した。 黄白という色名称は土色粘にない名称であるため色調名を変更した。	



# H24-B14-2 38.27~43.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
162	38.27	38.67	微細に割れ目が発達し、割れ目に沿って酸化・マンガン汚染が拡がる。	38.27	38.67	微細に割れ目が発達し、割れ目に沿って酸化・マンガン汚染が拡がる。	38.27	38.67	38.27~38.67m: 微細に割れ目が発達し、割れ目沿いに酸化・マンガン汚染が拡がる。	
163	38.67	39.21	全体に割れ目、岩組織やや不明瞭で、白色、赤赤白色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能である。(一部硬質硬塊)。カタクレーサイト種の岩相を呈する。	38.67	39.21	全体に割れ目、岩組織やや不明瞭であるが割れ目は残る。白色、赤赤白色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能である。(一部硬質硬塊)。カタクレーサイト種の岩相を呈する。	38.67	39.21	38.67~39.21m: 全体に割れ目や岩組織やや不明瞭であるが、割れ目は残る。白→淡赤灰色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能であるが、一部に硬質硬塊を残す。	
164	39.00	39.21	(割れ目状態欄) aランク	39.00	39.21	(割れ目状態欄) cランク	39.00	39.21	(割れ目状態欄) cランク	
165	39.21	39.35	(変質欄) 2ランク	39.21	39.35	(変質欄) 3ランク	39.21	39.35	(変質欄) 3ランク	
166	39.21	41.29	△30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目に沿って岩質劣化し、コアは岩片状を主とし、一部に硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白色→黄褐色シルトを挟んでいる。	39.21	41.29	△30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目に沿って岩質劣化し、コアは岩片状を主とし、一部にやや硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白色→黄褐色シルトを挟んでいる。	39.21	41.29	39.21~41.29m: 傾斜30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目沿いに岩質劣化し、岩片状を主とし、一部にやや硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白→黄褐色シルトを挟んでいる。	
167	39.21	40.13	割れ目面の多くは黄褐色化する。	39.21	40.13	割れ目面の多くは黄褐色化する。	39.21	40.13	39.21~40.13m: 割れ目面の多くは黄褐色化する。	
168	40.25	40.31	変質帯。上端△40、下端△50°で斜交する。灰白色粘土の混じる石英粒の粗砂~細砂からなる(粘土質砂状)。上下位のコアは巾10~20mmオリーブ灰色を呈する。	40.25	40.31	変質帯。上端△40°、下端△50°で斜交する。灰白色粘土の混じる石英粒の粗砂~細砂からなる(粘土質砂状)。上下位のコアは幅10~20mmでオリーブ灰色を呈する。	40.25	40.31	40.25~40.31m: 変質帯。上端40°、下端50°で斜交する。石英粒の粗砂~細砂を含む灰白色粘土質砂状を呈する。上下位のコアは幅10~20mmでオリーブ灰色を呈する。	
169	40.35	41.29	(変質欄) 2ランク	40.35	41.29	(変質欄) 3ランク	40.35	41.29	(変質欄) 3ランク	
170	41.29	42.13	上下位と比べて風化・変質の程度弱く、コア表面滑らか。△30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈する。	41.29	42.13	上下位と比べて風化・変質の程度弱く、コア表面滑らか。△30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈する。	41.29	42.13	41.29~42.13m: 上下位と比べて風化・変質の程度が弱く、コア表面が滑らかである。傾斜30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、細片~短柱状を呈する。	
171	41.65	41.74	(コアの形状欄) IVランク	41.65	41.74	(コアの形状欄) Vランク	41.65	41.74	(コアの形状欄) Vランク	
172	41.65	41.74	割れ目密集し、コアはやや脆弱となる。	-	-	-	41.65	41.74	41.65~41.74m: 割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	
173	41.74	42.27	(割れ目状態欄) aランク	41.74	42.27	(割れ目状態欄) bランク	41.74	42.27	(割れ目状態欄) bランク	
174	42.13	42.37	(風化欄) aランク	42.13	42.37	(風化欄) aランク	42.13	42.37	(風化欄) aランク	
175	42.27	42.71	(色調欄) 7.5YR7/1 明褐色	42.27	42.71	(色調欄) 7.5YR5/3 に近い褐	42.27	42.71	(色調欄) に近い褐	
176	42.13	42.71	風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に、42.37~42.47m間は上下端△45°の割れ目で壊され、岩組織、割れ目消失する(汚損を呈する)。	42.13	42.71	風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に、42.37~42.47m間は上下端△45°の割れ目で壊され、岩組織、割れ目消失する(汚損を呈する)。含まれる際に定向配列は見られない。	42.13	42.71	42.13~42.71m: 風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に、42.37~42.47m間は上下端傾斜45°の割れ目で壊され、岩組織や割れ目が消滅する。含まれる際に定向配列は見られない。	
177	42.71	43.19	(コアの形状欄) IVランク	42.71	43.19	(コアの形状欄) Vランク	42.71	43.19	(コアの形状欄) Vランク	
178	42.71	43.51	片~短柱状コアを呈し、やや軟質で、ハンマー打診で鈍い金属音を発する。	42.71	43.51	岩片~短柱状コアを呈し、やや硬質~やや軟質で、ハンマー打診で鈍い金属音を発する。	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
179	43.00	44.00	(ROD欄) 13 (最大コア長欄) 13	43.00	44.00	(ROD欄) 0 (最大コア長欄) 4	43.00	44.00	(ROD欄) 0 (最大コア長欄) 4	
180	42.71	43.00	(色調欄) 7.5YR7/1 明褐色	42.71	43.00	(色調欄) 10YR6/2 灰黄褐	42.71	43.00	(色調欄) 灰黄褐	

# H24-B14-2 43.00~46.20m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書まで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を本書まで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
181	43.00	43.51	43.00~43.51m間では、不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コアは褐灰~オリーブ灰色を帯びる。	-	-	-		43.00	43.51	43.00~43.51m 不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コアは褐灰~オリーブ灰色を帯びる。	
182	43.19	43.51	(コアの形状欄) IIIランク	43.19	43.51	(コアの形状欄) IVランク	・割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した	43.19	43.51	(コアの形状欄) IVランク	
183	43.51	43.81	風化・変質の影響を強く受ける。一部に硬さD相当の岩片を残すが、多くは針貫入可能である。上端(∠50°)には幅8~10mmで砂混じりシルトが分布する。	43.51	43.81	風化・変質の影響を強く受ける。一部に硬さD相当の岩片を残すが、多くは針貫入可能である。上端(∠50°)には幅8~10mmで明赤灰色の砂混じりシルトが分布する。	・シルトの色調を追記した ・表現の適正化(幅)	43.51	43.81	43.51~43.81m: 強く風化・変質し、一部に硬さDの岩片を残すが、多くは針貫入可能である。上端には傾斜50°で幅8~10mmの明赤灰色の砂混じりシルトが分布する。	
184	43.51	43.81	(色調欄) 10YR6/2 灰黄褐	43.51	44.08	(色調欄) 7.5YR5/3 に近い褐	・コアに合わせて色調欄の色調を修正	43.51	44.08	(色調欄) に近い褐	
185	43.51	43.81	(割れ目状態欄) dランク	43.51	43.81	(割れ目状態欄) eランク	・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをeランクに変更した	43.51	43.81	(割れ目状態欄) eランク	
186	43.81	44.08	上位と比べて風化・変質の程度は弱い。∠80°以上の割れ目に沿って土砂化するほか、網状に割れ目発達し、コアは脆弱である。	-	-	-		43.81	44.08	43.81~44.08m: 上位と比べて風化・変質の程度は弱い。傾斜80°以上の割れ目に沿って土砂化するほか、網状に割れ目が発達し、コアは脆弱である。	
187	44.00	45.00	(RQD欄) 16 (最大コア長欄) 16	44.00	45.00	(RQD欄) 0 (最大コア長欄) 9	・最大コア長16cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した ・上記に伴い、RQDを変更した	44.00	45.00	(RQD欄) 0 (最大コア長欄) 9	
188	44.08	45.25	∠15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、∠80°以上の割れ目が分布し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに多少変質化するが、岩片は硬質である。下端は∠52°の割れ目で下位と接する。割れ目には幅4mm砂・細砂混じり粘土が挟み、周囲のコアには白雲母が散在する。	44.08	44.25	∠15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、∠80°以上の割れ目が分布し、コアは細片状を呈する。割れ目沿いに多少変質化するが、岩片は硬質である。下端は∠52°の割れ目で下位と接する。割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細砂混じり粘土が挟み、周囲のコアには白雲母が散在する。	・傾記の修正(45.25~44.25) ・表現の適正化(片状→細片状、幅) ・粘土の色調を追記した	44.08	44.25	44.08~44.25m: 傾斜15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少変質化するが、岩片は硬質である。下端の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細砂混じり粘土を挟み、周囲には白雲母が晶出する。	
189	44.25	44.63	(割れ目状態欄) eランク (コアの形状欄) IIIランク	44.25	44.63	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した ・割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した	44.25	44.63	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク	
190	43.25	43.63	硬質柱状コア。	44.25	44.63	やや硬質な短柱状コア。	・傾記の修正(43.25~43.63m=44.25~44.63m) ・コアに合わせて硬軟、コア形状を変更した	-	-	-	・記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
191	44.63	45.20	割れ目沿いの風化・変質が進行し、コアは硬~片状を呈する。岩片は硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質なものもある。	44.63	45.20	割れ目沿いの風化・変質が進行し、コアは硬~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質なものもある。	・表現の適正化(片状→細片状) ・コアに合わせて硬軟を変更した	44.63	45.20	44.63~45.20m: 割れ目沿いの風化・変質が進行し、硬~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質なものもある。	
192	45.00	46.00	(RQD欄) 0 (最大コア長欄) 5	45.00	46.00	(RQD欄) 12 (最大コア長欄) 12	・45.20~45.32mを最大コア長12cmとして変更した ・上記に伴い、RQDを変更した	45.00	46.00	(RQD欄) 12 (最大コア長欄) 12	
193	45.00	45.20	D級岩盤。	45.00	45.20	D級岩盤-	・下記に詳述しているため削除した	-	-	-	
194	45.00	45.20	風化・変質を強く受け、割れ目および原岩組織の一部が不明瞭となる。	45.00	45.20	風化・変質を強く受け、割れ目および原岩組織の一部が不明瞭となる。	・表現の適正化(原岩組織)	45.00	45.20	45.00~45.20m: 風化・変質を強く受け、割れ目や原岩組織の一部が不明瞭となる。	
195	45.20	45.76	(コアの形状欄) IIIランク	45.20	45.76	(コアの形状欄) IVランク	・割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した	45.20	45.76	(コアの形状欄) IVランク	
196	45.20	45.76	∠50~60°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは片状~柱状を呈する。割れ目にはしばしば黄褐土砂状物質を挟み、岩片は硬質である。	45.20	45.90	∠50~60°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは岩片状~柱状を呈する。割れ目にはしばしば黄褐土砂状物質を挟み、岩片は硬質である。	・コアに合わせて下端深度を変更した ・表現の適正化(片状→岩片状)	45.20	45.90	45.20~45.90m: 傾斜50~60°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、岩片状~柱状を呈する。割れ目には黄褐土砂状物質を挟み、岩片は硬質である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
197	45.90	47.37	風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目、原岩組織がやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色を呈する変質粘土を挟み、周囲のコアには白雲母が散在する。	45.90	47.37	風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目、原岩組織がやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色を呈する変質粘土を挟み、周囲のコアには白雲母が散在する。	・表現の適正化(原岩組織)	45.90	47.37	45.90~47.37m: 風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目や原岩組織はやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状の割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色の変質粘土を挟み、周囲には白雲母が晶出する。	
198	46.07	46.07	巾12mm、∠35°、シルト質砂挟み。	46.07	46.07	幅12mm、∠35°、明黄褐色シルト質砂挟み。	・シルト質砂の色調を追記した ・表現の適正化(幅)	46.07	46.07	46.07m: 傾斜35°で幅12mmの明黄褐色シルト質砂を挟む。	
199	46.10	46.17	マンガン汚染が広がる。割れ目、原岩組織不明瞭であるが、コアは硬い。	46.10	46.17	マンガン汚染が広がる。割れ目、原岩組織不明瞭であるが、コアは硬い。	・表現の適正化(原岩組織)	46.10	46.17	46.10~46.17m: マンガン汚染し、割れ目や原岩組織は不明瞭である。コアは硬い。	
200	46.20	46.20	巾1~6mm、∠83°、砂混じりシルト挟み。	46.20	46.20	幅1~6mm、∠83°、灰白色砂混じりシルト挟み。	・砂混じりシルトの色調を追記 ・表現の適正化(幅)	46.20	46.20	46.20m: 傾斜83°で幅1~6mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。	



# H24-B14-2 46.74~50.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	記事	上端深度		下端深度
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
201	46.44	-	46.44m以深はやや変質の程度が弱く、上位と比べて割れ目間隔が広くなる。	46.74	-	46.74m以深はやや変質の程度が弱く、上位と比べて割れ目間隔が広くなる。	・転記の修正(46.44⇒46.74(コアに合わせて変更した))	46.74	-	46.74m以深は変質の程度がやや弱く、上位と比べて割れ目間隔が広くなる。	-
202	47.03	47.03	巾3mm、 $\angle 34^\circ$ 、砂混じりシルト挟在。	47.03	47.03	幅3mm、 $\angle 34^\circ$ 、灰白色砂混じりシルト挟在。	・砂混じりシルトの色調の追記 ・表現の適正化(幅)	47.03	47.03	47.03m、傾斜 $34^\circ$ で幅3mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。	-
203	47.37	47.40	(破砕度区分欄)Hb	47.37	47.40	(破砕度区分欄)Hb	・下記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	47.37	47.40	(破砕度区分)Hb	-
204	47.37	47.40	破砕帯(主せん断面37.40m)	47.37	47.40	破砕部(最新活動面47.40m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・転記の修正(37.40⇒47.40)	47.37	47.40	●47.37~47.40m:破砕部 粘土混じり塊状部(Hb) 上端40°、下端45°でともに凹凸して連続、径2~5mm程度の岩片主体である。下端付近に幅1~3mmの暗灰色粘土を挟在する。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。	・傾斜、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
205	47.37	47.40	塊状砂岩(Hb)、上端40°、下端45°、巾20~25mm、灰白砂質シルトを主とし、巾1~3mm褐色粘土を挟在する。上端はシヤープであるが、下端は凹凸する。Hbは灰白~褐色で塊状砂岩である。	47.37	47.40	粘土混じり塊状破砕部(Hb)、上端40°、下端45°で凹凸して連続、径2~5mm程度の岩片主体である。下端付近に幅1~3mmの連続性・直線性の良好な暗灰色粘土を挟在する。境界、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。	・破砕部であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した ・傾斜、境界面及び細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(幅)	47.37	47.40		
206	47.40	49.24	全体に実質作用が進行し、コアはシルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に粘土~シルト層が分布し、コアは全体として脆弱である。	47.40	49.24	全体に実質作用が進行し、コアはシルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルト層が分布し、コアは全体として脆弱である。	・粘土~シルト層の色調を追記した ・表現の適正化(網目状)	47.40	49.24	47.40~49.24m:全体に実質し、シルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルトが分布し、全体として脆弱である。	-
207	47.55	47.65	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク	47.55	47.65	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	47.55	47.65	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク	-
208	47.53	47.53	巾3mm、 $\angle 50^\circ$ 、灰白変質粘土を挟在する。	47.53	47.53	幅3mm、 $\angle 50^\circ$ 、灰白色変質粘土を挟在する。	・表現の適正化(幅) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)	47.53	47.53	47.53m、傾斜 $50^\circ$ で幅3mmの灰白色変質粘土を挟む。	-
209	47.70	48.87	$\angle 80\sim 90^\circ$ 割れ目に沿って著しく変質する(粘土~土砂化)。	-	-	-		47.70	48.87	47.70~48.87m、傾斜 $80\sim 90^\circ$ の割れ目沿いに著しく変質し、粘土~土砂化する。	-
210	48.00	49.00	(最大コア長欄)0	48.00	49.00	(最大コア長欄)2	・最大コア長が2cmのところが認められるため、修正した。	48.00	49.00	(最大コア長欄)2	-
211	48.09	48.09	巾3~5mm、 $\angle 72^\circ$ 、シルト質砂。	48.09	48.09	幅3~5mm、 $\angle 72^\circ$ 、灰白色のシルト質砂を挟む。	・表現の適正化(幅、挟む) ・シルト質砂の色調を追記した	48.09	48.09	48.09m、傾斜 $72^\circ$ で幅3~5mmの灰白色のシルト質砂を挟む。	-
212	48.09	48.22	(割れ目状態欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	48.09	48.22	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをCランクに変更した ・層間より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した ・コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	48.09	48.22	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	-
213	48.09	48.86	網状に実質粘土層が発達し、コアは粘土質砂礫~片状を呈する。岩片に風化変質は認められない。	48.09	48.86	網状に実質粘土層が発達し、コアは粘土質砂礫~片状を呈する。岩片に風化変質は認められない。	・表現の適正化(片状⇒細片片状)	48.09	48.86	48.09~48.86m:網状に実質粘土層が発達し、粘土質砂礫~細片状を呈する。岩片に風化変質は認められない。	-
214	49.00	50.00	(最大コア長欄)0	49.00	50.00	(最大コア長欄)2	・最大コア長が2cmのところが認められるため、修正した。	49.00	50.00	(最大コア長欄)2	-

# H24-B14-2 49.24~53.00m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事					
記事				記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)				記事を削除・変更・追記した理由					
上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事			
コア観察カードから正しく転記されているか?				追加変更した情報が正しく転記されているか?				適正化した記事内容					
<input checked="" type="checkbox"/>				<input checked="" type="checkbox"/>									
215	49.24	49.55	破砕帯	49.24	49.55	破砕部	用語の統一(破砕帯→破砕部)						
216	49.24	49.27	砂混り粘土状(Hc-2)。上端は凹凸する(∠20°程度)。下傾∠35°。巾15~25mm。灰~灰白砂混り粘土を主とする。上端は灰白で、下端に向かって灰色に漸移する。	49.24	49.26	砂混り粘土状(Hc-2)。上端は凹凸する(∠20°程度)。下傾∠35°で直線的(最新活動面)。幅15~25mm。灰~灰白色の細粒じり粘土を主とする。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。軟質で原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	・コアに合わせて下端深度を変更した。 ・砂より硬さを多く含むため破砕部内物質の名称を変更した。 ・硬軟、最新活動面、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の適正化(混じり) ・誤記の修正(「色」の記載漏れ)	49.24	49.55	●49.24~49.55m 破砕部 49.24~49.26m 砂混り粘土状部(Hc-2) 上端20°で凹凸する。下端35°。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.42m 粘土混り砂礫状部(Hg) 上端35°で直線的に連続。下端50°で波打って連続。径2~10mmの岩片を主体とし、岩片間に粘土細粒が傾斜40~60°で分布する。軟質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m 粘土質礫状部(Hb) 上端50°で波打って、下端20°で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片を主体とする。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m 粘土混り礫状部(Hg) 上端35°で直線的に連続。径5~10mmの岩片を主体とし、岩片間に粘土細粒が傾斜40~60°で分布する。軟赤灰色を呈する。 49.50m 砂混り粘土状部(Hc-2) 傾斜45°で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂混り粘土を挟む。	種軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面及び細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
217	49.27	49.42	粘土混り砂礫状(Hg)。上端は上記破砕帯と連続し、下端は∠35°を示す。粘土細粒が∠40~60°で多数分布するほか、Hc~Hc2相当の層層を挟む。軟質進行し、コアは緑灰色を帯びる。	49.26	49.42	粘土混り砂礫状(Hg)。上端は35°で直線的。下端は∠50°で波打って連続。粘土細粒が∠40~60°で断片的に分布する。軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。軟質進行し、コアは緑灰色を帯びる。	・コアに合わせて上端深度を変更した。 ・上端下傾境界、硬軟、境界面及び細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。 ・下傾の傾斜が上記の上端の傾斜と整合しないため下傾の傾斜を修正した。 ・表現の適正化(混じり)						
218	49.42	49.45	49.42~49.45、Hb相当。上端∠50°、下傾∠20°。上下端に暗灰色粘土0.3~5mmを伴う。	49.42	49.45	49.42~49.45m、粘土質礫状(Hb)相当。上端∠50°で波打って、下傾∠20°で直線的に連続。上下端に暗灰色粘土幅0.3~5mmを伴う。軟質、含まれる細粒部は断片的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。灰白色を呈する。幅10~20mm。	・破砕部内物質、境界面及び細粒部の連続性・直線性、硬軟、色調、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、幅について追記した。 ・誤記の修正(単位・「色」の記載漏れ)	49.24	49.55				
219	-	-	-	49.45	49.55	粘土混り礫状(Hg) 上端20°、下傾35°で直線的に連続。径9~10mmの岩片を主体とし、岩片間に灰白色の粘土細粒が断片的に分布する。やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。淡赤灰色を呈する。	・破砕部内物質、破砕区分、上端下傾境界、色調、内部構造、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。						
220	49.50	49.50	Hc-2相当。幅5~8mm、∠45°。白~淡赤灰色砂混り粘土を挟む。直線性に乏しい。やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	49.50	49.50	Hc-2相当。幅5~8mm、∠45°。白~淡赤灰色砂混り粘土を挟む。直線性に乏しい。やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・赤白という色名称は土色結にない名称であるため色調名を変更した。 ・表現の適正化(幅) ・誤記の修正(m⇒mm)						
221	49.55	49.64	風化・軟質により、コア表面粗く、脆弱。	-	-	-		49.55	49.64	49.55~49.64m 風化・軟質により、コア表面が粗く、脆弱である。			
222	49.70	50.27	(コアの形状欄)Ⅳランク	49.70	50.27	(コアの形状欄)Ⅴランク	・層面と同様に割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。	49.70	50.27	(コアの形状欄)Ⅴランク			
223	49.64	50.50	∠40~50°の割れ目が1~3cmで発達するほか、∠75°以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、コアは1~5cmの片状を呈する。上位と比較して風化・軟質の程度は弱く、比較的良好な岩盤と考えられる。	49.64	50.50	∠40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、∠75°以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、コアは1~5cmの片状を呈する。上位と比較して風化・軟質の程度は弱く、比較的良好な岩盤と考えられる。	・誤記の修正(「間隔」「僅」の記載漏れ) ・表現の適正化(片状⇒細片状)	49.64	50.50	49.64~50.50m 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、径1~5cmの細片状を呈する。	記事欄以外から読み取れる風化、軟質の情報は記載しない		
224	50.00	51.00	(最大コア長欄)0	50.00	51.00	(最大コア長欄)2	・最大コア長が2cmのところがあるため、修正した。	50.00	51.00	(最大コア長欄)2			
225	50.50	51.43	コア落下、回収不能。	50.50	51.43	コア欠如、回収不能。	・表現の適正化(コア欠如)	50.50	51.43	50.50~51.43m コア欠如			
226	50.50	51.43	(地質名欄)Qa (色調欄)コア欠	50.50	51.43	(地質名欄)コア欠如 (色調欄)空欄	・色調欄にコア欠の記載があるため地質名欄に記載した。 ・表現の適正化(コア欠如)	50.50	51.43	(地質名欄)コア欠如 (色調欄)空欄			
227	51.00	52.00	(最大コア長欄)7	51.00	52.00	(最大コア長欄)2	・最大コア長7cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した。	51.00	52.00	(最大コア長欄)2			
228	51.43	52.36	∠55~75°の割れ目が0.3~2cm間隔で発達し、コアは細片~薄片状を呈する。全体にやや軟質し、長石類は緑灰色化し、コアも灰色を帯びる。コアは脆弱でハンマーで細片状に砕ける。	51.43	52.36	∠55~75°の割れ目が0.3~2cm間隔で発達し、コアは細片~薄片状を呈する。全体にやや軟質し、長石類は緑灰色化し、コアも灰色を帯びる。コアは脆弱でハンマーで細片状に砕ける。	・表現の適正化(片状⇒岩片状)	51.43	52.36	51.43~52.36m 傾斜55~75°の割れ目が0.3~2cm間隔で発達し、細片~薄片状を呈する。全体にやや軟質し、長石類は緑灰色化し、灰色を帯びる。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
229	51.89	51.92	巾17mm、∠40°、シルト・細粒混じり砂。	51.89	51.92	幅17mm、∠40°、緑灰色のシルト・細粒混じり砂。	・砂の色調を追記した。 ・表現の適正化(幅)	51.89	51.92	51.89~51.92m 傾斜40°で幅17mmの緑灰色シルト・細粒混じり砂を挟む。			
230	52.00	53.00	(最大コア長欄)8	52.00	53.00	(最大コア長欄)5	・最大コア長5cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した。	52.00	53.00	(最大コア長欄)5			



# H24-B14-2 52.36~56.82m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			記事欄以外から読み取れる径さやコアの形状の情報(コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
		記事 コア観察カードから正しく(記載されているか?) <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく(記載されているか?) <input checked="" type="checkbox"/>					
231	52.14	52.36	52.14	52.36	コアは片状を主とする。岩片は硬質となる。	コアは岩片状を主とする。岩片はやや硬質となる。 ・表観の適正化(片状⇒岩片状) ・コアに合わせて硬軟を変更した。	-	-	-	記事欄以外から読み取れる径さやコアの形状の情報に記載しない
232	52.36	52.92	52.36	52.92	25°~45°の割れ目が0.5~5cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈する。	25°~45°の割れ目が0.5~5cm間隔で発達し、コアは細片~短柱状を呈する。 ・表観の適正化(片状⇒細片状)	52.36	52.92	52.36~52.92m: 傾斜25°~50°の割れ目が0.5~5cm間隔で発達する。	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報に記載しない
233	-	-	52.50	52.52	-	傾斜20°で幅10~20mmの暗灰色の塊凝り粘土を挟む。スライムの可能性が高い。 ・暗灰色の塊凝り粘土は層間と異なる状況であるため追記した。スライムの可能性があるためその旨を記載した。	52.50	52.52	52.50~52.52m: 傾斜20°で幅10~20mmの暗灰色の塊凝り粘土を挟む。スライムの可能性が高い。	-
234	52.60	52.76	52.60	52.76	(コアの形状欄)Ⅴランク	(コアの形状欄)Ⅴランク ・層間より割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。	52.60	52.76	(コアの形状欄)Ⅴランク	-
235	52.60	52.92	52.60	52.92	(割れ目状態欄)αランク	(割れ目状態欄)βランク ・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをβランクに変更した。	52.60	52.92	(割れ目状態欄)βランク	-
236	52.92	53.33	52.92	53.33	上位と比べて風化・変質進行し、コアは軟質となっている。特に52.92~53.13m間は割れ目・原岩組織が不明瞭となっている。	表現の適正化(原岩組織) ・表現の適正化(原岩組織)	52.92	53.33	52.92~53.33m: 上位と比べて風化・変質が進み、軟質である。特に52.92~53.13m間は割れ目や原岩組織が不明瞭である。	-
237	53.33	53.35	53.33	53.35	市20~25mm、上下端15°程度。上部は市5~15mm、粘土質砂礫状。下部は市5~15mm、砂・細塊凝り粘土状。いずれも灰白色。見かけ正断層。	市20~25mm、上下端15°程度。上部は幅5~15mm、粘土質砂礫状。下部は幅5~15mm、砂・細塊凝り粘土状。いずれも灰白色。見かけ正断層。 ・追記した理由から断層ではないと判断して「見かけ正断層」を削除し、「変質部」を追記した。 ・表観の適切化(塊) ・粘土状部の性状や境界、原岩組織の有無、内部構造の有無を追記した。 ・追記した理由から断層ではないと判断して「見かけ正断層」を削除し、「変質部」を追記した。	53.33	53.35	53.33~53.35m: 上下端15°程度で幅20~25mmの変質部。上部は幅5~15mmの粘土質砂礫状。下部は幅5~15mmの砂・細塊凝り粘土状を呈する。いずれも灰白色で、粘土状部は網目状に分布し、上端境界・下端境界は不明瞭である。原岩組織が認められ、せん断構造・変形構造は認められない。	-
238	53.35	53.82	-	-	25°および45°の割れ目が5~20mm間隔で交錯し、コアは細片状を呈する。全体に変質を受け、ほぼ全ての割れ目にフィルム状の白色粘土を挟む。	-	53.35	53.82	53.35~53.82m: 傾斜25°及び45°の割れ目が5~20mm間隔で交錯し、細片状を呈する。全体に変質し、ほぼ全ての割れ目にフィルム状の白色粘土を挟む。	-
239	53.82	54.48	53.82	54.48	密着した23°および20°の割れ目が3~5cm間隔で発達する。コアは硬質短柱状をなす。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。	密着した23°および20°の割れ目が3~5cm間隔で発達する。コアは硬質短柱状をなす。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。 ・分布する割れ目の傾斜は38°のみではないため傾斜を範囲で示した。 ・傾斜の修正(単位を記載漏れ) ・コアに合わせてコア形状を変更した。	53.82	54.48	53.82~54.48m: 傾斜30°~50°及び80°の密着割れ目が3~5cm間隔で発達する。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。	記事欄以外から読み取れる径さやコアの形状の情報に記載しない
240	54.48	55.00	54.48	55.00	(割れ目状態欄)αランク (岩級区分欄)CL	(割れ目状態欄)βランク (岩級区分欄)CM ・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをβランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した。	54.48	55.00	(割れ目状態欄)βランク (岩級区分欄)CM	-
241	54.48	55.40	-	-	上位に比べて割れ目沿いの褐色化がみられる。微細な割れ目も発達する。特に55.10~55.17mは微細な割れ目が密集し亀甲状をなす。割れ目沿って風化が進む。	-	54.48	55.40	54.48~55.40m: 上位に比べて割れ目沿いの褐色化がみられる。微細な割れ目も発達する。特に55.10~55.17mは微細な割れ目が密集し亀甲状を呈する。割れ目沿って風化が進む。	-
242	55.00	60.00	55.00	60.00	(地質名欄)花崗斑岩	(地質名欄)花崗斑岩 ・地質名欄の追記	55.00	60.00	(地質名欄)花崗斑岩	-
243	55.00	55.40	55.00	55.40	(コアの形状欄)Ⅴランク	(コアの形状欄)Ⅴランク ・上位より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。	55.00	55.40	(コアの形状欄)Ⅴランク	-
244	55.40	55.84	55.40	55.84	上下位に比べて風化・変質作用による岩盤劣化し、軟質となる。一部硬質岩片(硬さ0)が残存する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目傾度も上下位に比べて大となり、亀甲状をなす。微細な割れ目までマンガン汚染がみられる。	上下位に比べて風化・変質作用による岩盤劣化し、軟質となる。一部硬質岩片(硬さ0)が残存する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目傾度も上下位に比べて大となり、亀甲状をなす。微細な割れ目までマンガン汚染がみられる。 ・コアに合わせて硬軟を変更した。 ・表現の適正化(見)	55.40	55.84	55.40~55.84m: 上下位に比べて風化・変質により、やや軟質となる。一部や硬質の岩片が残存する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目も上下位に比べて多くなり、亀甲状を呈する。全体にマンガン汚染が見られる。	-
245	55.84	56.62	-	-	上位に比べて風化作用による岩盤の劣化は軽微となる。傾斜45°及び縦方向の割れ目がみられる。岩質は新鮮部がみられるが、割れ目沿いは褐色化する。	-	55.84	56.62	55.84~56.62m: 上位に比べて風化による劣化は軽微となる。傾斜45°及び縦方向の割れ目がみられる。岩質は新鮮部がみられるが、割れ目沿いは褐色化する。	-
246	56.38	56.62	-	-	割れ目沿いに岩盤が劣化し、細片化する。	-	56.38	56.62	56.38~56.62m: 割れ目沿いの細片化が見られる。	-
247	55.84	57.05	55.84	57.05	(割れ目状態欄)αランク (岩級区分欄)CL	(割れ目状態欄)βランク (岩級区分欄)CM ・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをβランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した。	55.84	57.05	(割れ目状態欄)βランク (岩級区分欄)CM	-
248	56.62	57.42	-	-	上位と比べてやや変質作用を受け、割れ目及び割れ目周辺に暗緑色鉱物が見られる。	-	56.62	57.42	56.62~57.42m: 上位と比べてやや変質を受け、割れ目及び割れ目周辺に暗緑色鉱物が見られる。	-
249	56.62	56.82	56.62	56.82	(コアの形状欄)Ⅴランク	(コアの形状欄)Ⅲランク ・層間より割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した。	56.62	56.82	(コアの形状欄)Ⅲランク	-

# H24-B14-2 56.62~63.09m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
250	56.62	56.91	(コアの硬さ欄) Bランク	56.92	56.91	(コアの硬さ欄) Bランク	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	56.92	56.91	(コアの硬さ欄) Bランク	-
251	57.42	57.68	上下位に比べて変質作用により岩盤が劣化し、軟質となる。長石類の大半は緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	57.42	57.68	上下位に比べて変質作用により岩盤が劣化し、やや軟質となる。長石類の大半は緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	コアに合わせた硬さを変更した ・緑泥石であるため「?」を削除した	57.42	57.68	57.42~57.68m:変質が進み、やや軟質となる。長石類の大半は緑泥石化する。	-
252	57.68	57.68	57.68m、割れ目沿いにマンガンが濃集し(最大幅2mm)、周囲の微細な割れ目はマンガンに汚染される。	-	-	-	-	57.68	57.68	57.68m、割れ目沿いに最大幅2mmでマンガンが濃集し、周辺の微細な割れ目もマンガンに汚染される。	-
253	57.68	58.00	57.68~58.00、上位に比べて変質作用は軽微となる。	57.68	58.00	57.68~58.00m、上位に比べて変質作用は軽微となる。	記述の修正(単位の記載漏れ)	57.68	58.00	57.68~58.00m:上位に比べて変質は軽微となる。	-
254	58.00	58.31	(割れ目状態欄) Cランク (コアの硬さ欄) Cランク	58.00	58.31	(割れ目状態欄) Bランク (コアの硬さ欄) Bランク	割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをBランクに変更した ・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	58.00	58.31	(割れ目状態欄) Bランク (コアの硬さ欄) Bランク	-
255	58.00	58.50	上下位に比べて岩質良好となる。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんど見られない。	-	-	-	-	58.00	58.50	58.00~58.50m:上下位に比べて岩質は良好である。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんど見られない。	-
256	58.50	58.78	変質作用により、長石類は緑色鉱物に変質し、軟質となる。傾斜30°程度の割れ目が優勢となる。	58.50	58.78	変質作用により、長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質となる。傾斜30°程度の割れ目が優勢となる。	硬さを変更した	58.50	58.78	58.50~58.78m:長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質である。傾斜30°程度の割れ目が主体である。	-
257	58.78	59.05	58.78~59.05、上位に比べて変質作用は軽微であり、硬質となる。	58.78	59.05	58.78~59.05m、上位に比べて変質作用は軽微であり、やや硬質となる。	記述の修正(単位の記載漏れ) ・硬さを変更した	58.78	59.05	58.78~59.05m:上位に比べて変質は軽微であり、やや硬質である。	-
258	59.05	59.25	上下位に比べて、変質作用によって岩盤が劣化し、軟質となる。長石類は淡緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	59.05	59.25	上下位に比べて、変質作用によって岩盤が劣化し、やや軟質となる。長石類は淡緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	硬さを変更した ・緑泥石であるため「?」を削除した	59.05	59.25	59.05~59.25m:上下位に比べて変質し、やや軟質である。長石類は緑泥石化する。	-
259	59.48	59.55	(コアの形状欄) IVランク	59.48	59.55	(コアの形状欄) Vランク	下位と同様に割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	59.48	59.55	(コアの形状欄) Vランク	-
260	59.55	59.85	下位に破砕帯、上位に変質帯を伴い、岩盤は劣化する。割れ目間隔は3cm以下であり、微細な割れ目を伴い、亀甲状をなす。上部(59.90m付近まで)には、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微であるのに対して、下部(60.42~60.62m)では割れ目沿いに褐色化がみられ、緑色鉱物脈が付着、挟在する。上下部ともに割れ目沿いの細片化がみられる。	59.55	60.85	下位に破砕帯、上位に変質帯を伴い、岩盤は劣化する。割れ目間隔は3cm以下であり、微細な割れ目を伴い、亀甲状をなす。上部(59.90m付近まで)には、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微であるのに対して、下部(60.42~60.62m)では割れ目沿いに褐色化がみられ、緑色鉱物脈が付着、挟在する。上下部ともに割れ目沿いの細片化がみられる。	記述の修正(59.85m⇒60.85m) ・用語の統一(破砕帯→破砕部、変質帯→変質部) ・表現の適正化(見)	59.55	60.85	59.55~60.85m:割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈する。59.90m付近までは、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.62mでは割れ目沿いに褐色化し、緑色鉱物脈が付着、または挟在する。全体に割れ目沿いの細片化が見られる。	・上位、下位の要質部、破砕部の記載は別の記事で扱われるため記載しない
261	60.85	150.00	アブライト	-	-	-	-	60.85	150.00	60.85~150.00m:アブライト	-
262	60.85	61.12	破砕帯(主せん断面、61.12m)、上傾40°、下傾45°をなす。境界は明確。	60.85	61.12	破砕部(最新活動面、61.12m)、上傾40°、下傾50°をなす。境界は明確。	用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・コアに合わせた下傾境界の傾斜を変更した(45°⇒50°) ・上傾側が必ずしも上盤とは限らないため上傾に変更した。下傾も同様。	60.85	61.12	●60.85~61.12m:破砕部 粘土混じり角礫状部(H) 上傾40°、下傾50°でともに直線的に連続。径5~30mmの硬さCの角礫からなる。明黄褐~緑灰色を呈する。	・複製、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有様、境界面や端部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
263	60.85	61.11	粘土混じり角礫状破砕部(原岩の組織は残る。硬さは硬質(硬さC)。(H)相)	60.85	61.12	粘土混じり角礫状破砕部(原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。径5~30mmの硬さは全体に硬質(硬さC)。(H)相)をなす。含まれる細粒部は新解部に分布。明黄褐~緑灰色を呈する。	記述の修正(61.11m⇒61.12m) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した ・コアに合わせた色調を追記した	60.85	61.12	(色調欄)明黄褐 (割れ目状態欄) Cランク (コアの形状欄) Vランク	-
264	60.85	61.12	(色調欄) 5YR6/1 (黄褐) (割れ目状態欄) Cランク (コアの形状欄) Vランク	60.85	61.12	(色調欄) 明黄褐(2.5Y7/6) (割れ目状態欄) Cランク (コアの形状欄) Vランク	コアに合わせた色調の色調を変更した ・割れ目が隠れてしまったため割れ目状態のランクをCランクに変更した ・割れ目の傾斜は階層と同様であるためコアの形状のランクをVランクに変更した	60.85	61.12	(色調欄)明黄褐 (割れ目状態欄) Cランク (コアの形状欄) Vランク	-
265	61.12	63.47	傾斜30°~40°及び70°の主な割れ目とこれに斜交する微細な割れ目がみられ、一部亀甲状をなす。主要な割れ目はすべて酸化汚染を受け、褐色を呈する。岩芯には新鮮部がみられる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。	-	-	-	-	61.12	63.47	61.12~63.47m:傾斜30~40°及び70°の割れ目と、これらに斜交する微細な割れ目が見られ、一部亀甲状を呈する。連続する割れ目は全て酸化汚染を受け、褐色化する。岩芯には新鮮部が見られる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。	-
266	62.97	63.09	割れ目密集し脆弱。下端で45°、巾1~2mm、緑白粘土。	62.97	63.09	割れ目密集し脆弱。下端で45°、幅1~2mm、緑灰色粘土。	緑白という色名は土色粘らない名種であるため色調名を変更した。 ・表現の適正化(幅)	62.97	63.09	62.97~63.09m:割れ目が密集し脆弱である。下端には傾斜45°で幅1~2mmの緑灰色粘土を挟む。	-



# H24-B14-2 63.09~67.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		適正化した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
267	63.09	63.47	(コアの形状欄)IVランク	63.09	63.47	(コアの形状欄)Vランク	・上位と同様に割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	63.09	63.47	(コアの形状欄)Vランク	-
268	63.09	65.32	(割れ目状態欄)cランク	63.09	65.32	(割れ目状態欄)bランク	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した	63.09	65.32	(割れ目状態欄)bランク	-
269	63.47	64.15	上位と比べて割れ目間隔広く(巾5~10cm)、コアは柱状を呈する。割れ目沿いに細片化が認められるが、コア自体は硬質である。	63.47	64.15	上位と比べて割れ目間隔広く(巾5~10cm)、コアは柱状を呈する。割れ目沿いに細片化が認められるが、コア自体は硬質である。	・表現の適正化(幅) ・コアに合わせてコア形状を変更した	63.47	64.15	63.47~64.15m:幅5~10cmの割れ目間隔で上位と比べて広い。割れ目沿いに細片化が認められる。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
270	64.15	64.59	(岩級区分欄)CL	64.15	64.59	(岩級区分欄)CM	・割れ目状態のランク変更に伴い、岩級を変更した	64.15	64.59	(岩級区分欄)CM	-
271	64.15	64.82	∠40~50°の割れ目が3~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在(密着)割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、コアはハンマーの打撃でやや脆い音を発する。	-	-	-	-	64.15	64.82	64.15~64.82m:傾斜40~50°の割れ目が3~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、ハンマーの打撃でやや脆い音を発する。	-
272	64.26	64.51	上下位と比べて変質が進行する。上端∠45°、下端∠60°程度で壊される。	-	-	-	-	64.26	64.51	64.26~64.51m:上端45°、下端60°程度で壊されて変質が進む。	-
273	64.59	64.82	(コアの形状欄)IVランク	64.59	64.82	(コアの形状欄)Vランク	・下位と同様に割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	64.59	64.82	(コアの形状欄)Vランク	-
274	64.82	65.32	∠30~45°および∠70°の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは薄片状(岩片は硬質)を呈する。しばしば低角割れ目沿いに変質し、白雲母を挟在する。	64.82	65.32	∠30~45°および∠70°の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは薄片状(岩片は硬質)を呈する。しばしば低角割れ目沿いに変質し、白雲母を挟在する。	・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の適正化(片状⇒細片状、低角⇒低角度)	64.82	65.32	64.82~65.32m:傾斜30~45°と70°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。低角度割れ目沿いに変質し、白雲母を伴う。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
275	65.32	65.32	フィルム状~巾5mm、∠45°、灰白色砂泥じり粘土。	65.32	65.32	フィルム状~巾5mm、∠45°、灰白色砂泥じり粘土。	・表現の適正化(幅) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)	65.32	65.32	65.32m:傾斜45°でフィルム状~巾5mmの灰白色砂泥じり粘土を挟む。	-
276	65.32	65.42	(割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)2ランク	65.32	65.42	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)3ランク	・割れ目は認識できないため割れ目状態のランクをdランクに変更した ・層間より割れ目が多いためコアの形状のランクをVIランクに変更した ・コアは指軟質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した ・上位に比べて変質の程度が強いため変質のランクを3ランクに変更した	65.32	65.42	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)3ランク	-
277	65.32	65.86	上下位と比べて風化・変質進行し、コアは塊状化する。割れ目沿いに脱色・細粒化が認められ、あわせてわずかに褐色化する。又、有色鉱物層縁部も褐色化している。	-	-	-	-	65.32	65.86	65.32~65.86m:風化・変質し、軟質化する。割れ目沿いに脱色し細粒化する。一部に褐色化も見られる。有色鉱物層縁部も褐色化する。	-
278	65.67	65.86	コアは岩芯まで変質(脱色)が進行し、灰白~淡黄色を呈する(2.5Y7/2~7/3)。	-	-	-	-	65.67	65.86	65.67~65.86m:コア全体が脱色し、灰白~淡黄色を呈する。	-
279	65.85	65.85	巾1mm、∠34°、灰白粘土挟在、マンガン濃集を伴う。	65.85	65.85	巾1mm、∠34°、灰白色粘土挟在、マンガン濃集を伴う。	・表現の適正化(幅) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)	65.85	65.85	65.85m:傾斜34°で巾1mmの灰白色粘土を挟み、マンガン濃集を伴う。	-
280	65.86	66.06	不規則に潜在割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。	-	-	-	-	65.86	66.06	65.86~66.06m:不規則に潜在割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。	-
281	65.86	66.06	(コアの形状欄)Vランク	65.86	66.06	(コアの形状欄)IVランク	・下位と同様な割れ目傾度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した	65.86	66.06	(コアの形状欄)IVランク	-
282	65.86	65.35	(岩級区分欄)CL	65.86	65.35	(岩級区分欄)CM	・割れ目状態及びコアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した	65.86	65.35	(岩級区分欄)CM	-
283	65.86	66.43	(割れ目状態欄)cランク	65.86	66.43	(割れ目状態欄)bランク	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した	65.86	66.43	(割れ目状態欄)bランク	-
284	66.00	67.00	(ROD欄)22	66.00	67.00	(ROD欄)10	・最大コア長12cmとしたコアには潜在割れ目が見られるためRODには計上しないこととし、最大コア長10cmのみのRODの値に変更した	66.00	67.00	(ROD欄)10	-

# H24-B14-2 66.06~68.63m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
285	66.06	67.38	66.06	67.38	<p>285 66.06 67.38 45°~50°の割れ目が2~15cm間隔でコアは良好であり、それと斜交するように45°以上の高角割れ目が発達する。</p>	<p>285 66.06 67.38 45°~50°の割れ目が2~15cm間隔で分布し、コアは良好であり、それと斜交するように45°以上の高角割れ目が発達する。</p>	66.06	67.38	66.06 67.38 66.06~67.38m:傾斜30~50°の割れ目が2~15cm間隔で分布し、それと斜交する傾斜65°以上の高角割れ目が発達する。	
286	66.06	66.81	66.06	66.81	<p>286 66.06 66.81 66.06~66.81m間では、高角割れ目の多くは密着している。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。</p>	<p>286 66.06 66.81 66.06~66.81m間では、高角割れ目の多くは密着している。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。</p>	66.06	66.81	66.06~66.81m:高角割れ目の多くは密着する。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。	
287	66.85	68.23	66.85	68.23	<p>287 66.85 68.23 (岩級区分欄)CL</p>	<p>287 66.85 68.23 (岩級区分欄)CM</p>	66.85	68.23	66.85 68.23 (岩級区分欄)CM	
288	66.85	67.38	66.85	67.38	<p>288 66.85 67.38 (割れ目状態欄)cランク</p>	<p>288 66.85 67.38 (割れ目状態欄)bランク</p>	66.85	67.38	66.85 67.38 (割れ目状態欄)bランク	
289	66.86	66.86	66.86	66.86	<p>289 66.86 66.86 45°の割れ目間(幅15mm)、岩質劣化する。</p>	<p>289 66.86 66.86 45°の割れ目間(幅15mm)、軟質化し、脱色する。</p>	66.86	66.86	66.86m:傾斜45°で幅15mmが脱色し、軟質化する。	
290	66.90	66.90	66.90	66.90	<p>290 66.90 66.90 幅1mm、45°、淡黄褐色砂泥シリシルト挟在。</p>	<p>290 66.90 66.90 幅1mm、45°、淡黄褐色砂泥シリシルト挟在。</p>	66.90	66.90	66.90m:傾斜45°で幅1mmの淡黄褐色砂泥シリシルトを挟む。	
291	67.38	67.51	67.38	67.51	<p>291 67.38 67.51 風化・変質を強く受け、コアは指圧でほぐせるほど軟質である。上端は45°、下端は20°で壊される。これ以降、上位と比べて風化の影響を強く受ける。</p>	<p>291 67.38 67.51 風化・変質を強く受け、コアは指圧でほぐせるほど軟質である。上端は45°、下端は20°で壊される。これ以降、上位と比べて風化の影響を強く受ける。</p>	67.38	67.51	67.38~67.51m:上端35°、下端20°で囲まれ、風化・変質を強く受け、指圧でほぐせるほど軟質である。	
292	67.38	67.51	67.38	67.51	<p>292 67.38 67.51 (割れ目状態欄)dランク</p>	<p>292 67.38 67.51 (割れ目状態欄)cランク</p>	67.38	67.51	67.38 67.51 (割れ目状態欄)cランク	
293	67.51	68.23	67.51	68.23	<p>293 67.51 68.23 45°~70°の割れ目が2~5cm間隔で交錯し、コアは片状を呈する。又、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目沿いに細片化するが、岩片は硬質である。</p>	<p>293 67.51 68.23 45°~70°の割れ目が2~5cm間隔で交錯し、コアは片状を呈する。又、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目沿いに細片化するが、岩片はやや硬質である。</p>	67.51	68.23	67.51~68.23m:傾斜50~70°の割れ目が2~5cm間隔で交錯し、細片状を呈する。また、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目沿いに細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
294	67.51	68.23	67.51	68.23	<p>294 67.51 68.23 (割れ目状態欄)bランク (風化欄)δランク</p>	<p>294 67.51 68.23 (割れ目状態欄)bランク (風化欄)γランク</p>	67.51	68.23	67.51 68.23 (割れ目状態欄)bランク (風化欄)γランク	
295	68.23	68.63	68.23	68.63	<p>295 68.23 68.63 風化・変質著しく、原岩組織、割れ目不明瞭となる。上端は45°で壊され、下端はコア昇降により不明。カタクレーサイト様(?)の岩相。</p>	<p>295 68.23 68.63 風化・変質著しく、原岩組織、割れ目不明瞭となる。割れ目跡は残る。含まれる硬に定向配列は見られない。上端は45°で壊され、下端はコア昇降により不明。カタクレーサイト様(?)の岩相。</p>	68.23	68.63	68.23~68.63m:上端50°の割れ目、下端はコアの昇降部で不明であるがこの間、風化・変質が著しい。原岩組織は不明瞭となるが、割れ目跡は残る。含まれる硬に定向配列は見られない。	
296	68.23	68.33	68.23	68.33	<p>296 68.23 68.33 網状に変質粘土分布する(H様)。</p>	<p>296 68.23 68.33 網目状に変質粘土分布する(H様)。下端境界は不明瞭である。割れ目跡は残る。</p>	68.23	68.33	68.23~68.33m:網目状に変質粘土が分布する。下端境界は不明瞭である。割れ目跡は残る。	
297	68.23	68.41	68.23	68.41	<p>297 68.23 68.41 (割れ目状態欄)dランク</p>	<p>297 68.23 68.41 (割れ目状態欄)cランク</p>	68.23	68.41	68.23 68.41 (割れ目状態欄)cランク	
298	68.41	68.63	68.41	68.63	<p>298 68.41 68.63 (コアの硬さ欄)δランク</p>	<p>298 68.41 68.63 (コアの硬さ欄)εランク</p>	68.41	68.63	68.41 68.63 (コアの硬さ欄)εランク	
299	68.42	68.63	68.42	68.63	<p>299 68.42 68.63 土砂~角礫状を呈する(H様)。</p>	<p>299 68.42 68.63 土砂~角礫状を呈する(H様)。マンガン汚染で塊状化しているが、硬に定向配列は見られない。</p>	68.42	68.63	68.42~68.63m:土砂~角礫状を呈する。マンガン汚染で塊状化するが、硬に定向配列は見られない。	